

今年度も「明るくさわやかで笑顔あふれる八百津小学校」を目指し、取り組んでいます。校訓にある「礼節・質・美」を大切にしながら、子どもたちの「笑顔」をたくさん創り出したいと考えています。

そのための重点の一つとして取り組んでいることが「人権教育」です。その中心的な取り組みになる人権創作劇「メノラの灯」は今年10年目を迎えました。

1. はじめに

本校は、平成18・19年の2年間にわたり、文部科学省指定の「人権教育」の研究校でした。当時の先生方が、「八百津町で人権教育を考えると、杉原千畝氏抜きには考えられない」ということで、高学年で行っていた杉原千畝氏の調べ学習を発展させて、学習の成果を劇と歌で発表する形式で生まれたのが「メノラの灯」の始まりです。平成18年度に初上演し、その後毎年上演しており、今年度は10年目を迎えました。平成21年度には、長良川国際会議場で開催された「人権フェスティバル全国大会」でも上演しており、本校の「新しい伝統」としての位置づけが確立してきました。



▲杉原千畝氏

2. 具体的な取り組み

本校では、高学年の総合的な学習の時間の中心を杉原千畝氏の学習と位置づけています。記念館を訪問したり、資料で調べたりしながら、杉原氏の思いや願いを主体的に学ぶようにしています。その学習のまとめの一つとして、この「メノラの灯」の劇を上演しています。



▲記念館での学習の様子

毎年12月10日は「世界人権デー」です。この日に先立つ1週間(12/4~12/10)を人権週間とし、岐阜県ではこの週間に「ひびきあ

いの日」という名称で学校や地域、家庭において人権に関わる取り組みを行います。本校ではここ数年、劇の上演を、「ひびきあいの日」に合わせて行っています。杉

原氏の業績や志を学び、発表するだけの行事ではなく、「おもいやりの心」「命の大切さ」を全校で考える日としています。具体的には、2学期に入ると、「おいしいことばキャンペーン」など、相手を意識した言葉遣いや、行動の呼びかけを児童会が進めます。



▲「メノラの灯」公演の様子

11月になると、ひびきあい週間の取り組みが始まり、高学年は委員会ごと「思いやり」をテーマに活動し、低学年は各自の「おもいやり」を宣言し、それに関わり活動を行います。「ひびきあいの日」には、集会を開き、第1部が「メノラの灯」、第2部は「思いやりプロジェクト発表会」となります。

3. 今年度のひびきあい集会

と き：12月5日(土)

ところ：ファミリーセンター

◇第1部 午後12時40分~1時45分 大ホール
人権創作劇「メノラの灯」

◇第2部 午後2時~3時 大研修室
「OMOIYARI音楽会」

今年度は第2部として、「OMOIYARI音楽会」を行います。歌手の藤田恵美さん(元Le Couple)による音楽会です。藤田さんが歌ってみえる「OMOIYARIのうた」は、八百津小学校の子どもたちが4年前から毎年大切に歌い継いでいる曲で、子どもたちとの合唱も予定しています。

4. さいごに

今年は、杉原千畝氏の「命のビザ」を含む関連史料『杉原リスト』がユネスコの世界記憶遺産の国内候補に選ばれました。その日、新聞社の取材を受けた6年男子が以下のようなコメントを発表してくれました。

「今年も12月にメノラの灯を上演予定です。世界記憶遺産の国内候補にもなったので、さらに千畝さんのことを学んで、命の大切さや、人権について考え、いい劇にしていきたいと思いました。」

このように、杉原千畝さんの志を本校の伝統に感じる子どもたちをさらに育てていきたいと思ひます。